

考古畫譜
五
終

珍
398
4上





考古画譜卷四

波部

八幡宮縁起

字佐宮藏三卷

画図品目云八幡宇佐宮御託宣集卷尾曰和氣清
麿爲勅使參宇佐宮事被書繪詞私云此繪者後
白川院御宇被納蓮華王院宝藏相公顯種御爲辨
官之時依奉宝藏事之次被寫置此詞矣宝治年中

全

同藏二卷

画刑部大輔光信詞義教將軍



卷後云為賁三所之威光尋取兩卷之緣起則致新
因奉納尊前早鑒敬神之志亦每感應之瞻矣永
享五年孟夏廿一日心夷大將軍左大臣兼右近衛大將
源朝臣

全 男山社藏二卷

画刑部大輔光信詞義教將軍

卷尾云為賁三所之威光尋取兩卷之緣起則致新
因奉納尊前早鑒敬神之志亦每感應之瞻矣永
享五年子孟夏廿一日心夷大將軍左大臣兼右近衛
大將源朝臣

全 譽田社藏五卷

宗廟緣起 三卷 神切皇后緣起 二卷 繪刑部大輔光

信詞義教將軍

跋文云先年當社參詣之時并見緣起三卷處事
略繪不周備仍拾舊本之遺更致新寫之切益顯既
性之灵驗為將來之龜鑑謹寄進室前敬奉仰玄
鑒者也永享五年孟夏廿一日心夷大將軍左大臣兼右近
衛大將源朝臣

譽田宗廟御緣起土佐光信三筆也寬文六年六月日法
印狩野探幽押

卷末云新圖神切皇后縁起奉納譽田宗廟之室前其
繪兩卷象于二儀即憑不測之感通常施無為之德而
己永享五年孟夏廿一日正夷大將軍左大臣兼右近衛
大將源朝臣

神切皇后御縁起繪土佐光信真筆也寛文六年林鐘
中旬法印狩野探幽押

一本奥書云普光院義教公御自筆右縁起之繪土佐
將監光信也寛文九年十月廿五日大内記菅原豊長

画巧便覧云河内譽田八幡宮有住吉法眼所画之縁
起普光院義教公曾覽之其圖未完成乃命光信

令補綴之光彩精緻可謂神妙

輔軒小録云詞書義教將軍画古土佐

倭錦云神切皇后縁起画彈心忠廣周詞義教將軍

躬行按予字佐二卷縁起之下悉画光信詞義教將軍とあり然りとて
義教公嘉吉元年六月赤松満祐が書ま穢せらるゝ光信も彈心廣周男実
ハ中務丞光弘の子也倭錦又天文十二年九十才卒と記せり然らば
永享末古往當時光信未生じ前あり誤るゝ論あり倭錦は
譽田神切皇后縁起を光信の父廣周とせり此説當ぬは年曆は
くはり又詞書のつゝも義教將軍とせしむるも跋文のうらみ自書
の趣ありのみ多しねどこの説もまじ候難しゆて上の奥書も嘉吉三所感
光云とある三所ハ字佐男山譽田をいせぬものなり此三社の縁起
一時に奉獻せらるゝ也卷末の年月もてしむる
續類從第六十七有譽田八幡縁起

全 手向山社藏二卷

画宗軒詞寺務公順僧正

卷末記云繪師宗軒詞寺務公順天文四年八月十五日逍遙
叟此繪上下兩抽祐全法沙勸教令奉納東大寺八幡宮
宝殿可為未未除之靈寶者也

本朝画史云 有別号宗軒画東大寺縁起與琳賢同
時疑是東大寺之繪所乎

展覧目錄東大寺云画宗軒詞一條大閣寺務公順祐全

法師寄附有天文四年奥書廣行云俗事不足見

後奈良院宸記大永四年九月十一日云師大納言八幡縁起二卷上下

見参入同月十一日東大寺八幡縁起繪詞今日書之師卿ニカ

公上卷許也繪者大和國繪師也

春村按此縁起詞書一條大閣公順僧正と云云此のハ誤りて上卷ニ
宸筆下卷は師大納言の御一宸記の御文殿の御一云云師大
納言は三條西和名院公條公也云云考所所
躬行云展覧目錄六画岡呂目ホニ詞一條禪閣寺務公順と云云
誤りて詞は公順僧正一名也兼良公は文明中薨せりて時世合
し春宮宸記を引て論らるる也大永縁起と今傳らるる
按子大永四年より天文四年まで傳僅二十一年を以て再送あり
は故ありて其と記らる共一あり

全 箱崎社藏五卷

倭錦云筑前國函崎八幡宮縁記画法眼具慶脱詞書筆者

花園帝宸影 一幀

園大曆云觀應元年七月廿一日梅津長老啟首座入

未謁之花園院御信敬僧也彼御影在梅津云可兼持
之旨約了同九月十一日抑今日花園院御日忌也
彼御影梅津大梅山道皎和尚預置云去月欲參之
死不遂本意仍今日參拜也得衣直衣八葉車懸御
簾下部等直岳也光熙朝臣仲康紀定景等在共又前
大納言春宮大夫同車又守賢朝臣同令乘車後也先
於客殿所言之後參御影堂燒香和尚裏帳臺帷
宛如拜現在龍顏哀哉此御影者御存在之間御眼鼻
以下不違寸分忠季卿奉寫之即御自身開眼御等身
香御袈裟御指貫也

本朝画史云僧豪信能画為山法印藤信實六世孫也
或曰所在洛西梅津長福寺花園院宸影者豪信奉
命所寫也

倭錦云梅津長福寺花園院宸相豪信筆

春村云此宸相其信法師の筆云云云忠季卿奉画と云云也云云正親町
權大納言忠季卿云々貞治五年二月廿三日四十五才を薨り一人也
躬行云以豪信為信實六世孫者誤
藤原隆信一信實一為繼一伊信一為信一豪信

秦川勝像

筆者姓名不傳撰州四天王寺藏 有彩色紙形

全 一幀

仁者寺寬隆法親王画山城廣隆寺藏

保元平治物語繪 残缺

倭錦云画法眼度恩詞從二位家隆御

六波羅行幸卷 雲州侯藏 信西獄門卷 伊勢福寫大文藏

三條殿夜討卷 本多隆理藏 六波羅合戰粉本 不具着色已失原本所在

全書續 二卷

同書云越前守光頭

待賢門合戰卷 松山侯藏 常盤卷 奉母内藤家藏

躬行云此繪今存此處死原本三卷書續二卷と云し平治物語よりして保元物語早く洗しなり但家隆御は嘉祿三年八月廿七薨せらるる慶恩の世系はゆきつらぬのにはてしなくあることなり

全屏風

刑部大輔光信筆

保元合戰屏風

倭錦云刑部大輔光長筆

全 残欠

同書云中務函光弘画

全 小屏風

狩野雅樂助筆

本朝画史云狩野雅樂助印有朝隱之字一祐勢の仲子也とのありて其名不載

長谷雄隻紙 一卷

好古小録云画二姓名不傳摸本二種あり破裂不全

者佳本也全者ハ俗子之補ナリ
古物語類字抄云此物ウモリハ紀長谷雄々朱
雀門の橋ヲ仕向リテ鬼神ト渠方字ウモリ
ニ美女をか若ものヨリケッウモリセをの
ちニケレハいニモ女房を得ク寵愛の得
ニセキマのウモリニ會フト鬼神のイマ
ありニ物もあはづ日ならズニて寝生
けれバそ仕女ニみりぬ子れニてあうれ
るヨリニをアケリ書ニハ土佐行長トイハ
りニミ遊

板谷桂丹云此卷画工雖有説、克肖荏柄天神縁起可為右近將並行長所画

貫雄云神宮商物一卷飛障守惟久筆住吉廣行所畫定今世所傳本者栗田口雙齋所画云

長谷寺縁起 三卷

展覧目錄 長谷寺 云繪詞縁起三卷画筆者不知詞

後田融院宸翰 廣行云画ハ俗筆也

道の幸 同云繪詞縁起詞書 後田融院の宸筆の上

いニド繪ニケルものあり也

倭錦云初瀬寺縁起中務丞光弘筆

躬行云後田融帝は明德四年四月廿六日崩一際アノ光弘ハ
嘉吉のハ人なるハ時代イタノ後れたリヤ

全 三卷

野山歌集卷三 長谷寺縁起 三卷

遠碧軒記云長谷縁起三卷ウリ物ニ出金千百兩ト云土佐上代隆兼之筆也

全

同書云長谷縁起詞ハ飛鳥井雅俊画ハ土佐光信也奥、大智院義視、詠歌三首自筆ヲ書付タリ此

縁起ハ即慈照院義政公ノ寄進ナリト云

雅俊正二位大納言大永三年四月十日薨李今出川義視定利義政公才初淨土寺門主義尋寛正五年俗死徳三年二月七日薨三十

橋姫物語 一卷

画図品目云画者姓名不傳詞白川三位雅高公

倭錦云橋姫物語法眼如慶筆

古物語類字抄云桜ノ色葉和奇集ヲ何ハゆとみえ

多奈ノ頭巨密助河海抄歌林良材ホリノ原宇

治橋姫と同物ニク後世ニ傳モラレタリト別ニ

まを一種アリトハ画図品目ニ橋姫物語一卷ト云

字リ此繪卷ハヨリニみされトハあらハ後代ノ也

此女也但詞書白川三位雅高卿みすれトシ神祇伯雅高王正三位有リ元禄元年十月十五日六十九才薨シ

貫雅云此詞書妙法院竟然親王白川二位雅高王飛鳥井大納言雅章御其池公御合作アリ

後いん 一卷

倭錦云画飛澤守惟久詞世尊寺行尹卿

古物語類字抄云此隻紙尾尾州家乃秘庫あり云
亨建武の頃より出来しものなりといふ

博戯圖 一卷

豫樂院相國基恐公書画一手戲作

卷尾云元録十六年三月中旬押依所望與藏人式部

亟頼庸

洪彩紙本僧俗うちわりて博戯をとりて圖あり其洒落實に
いふべからぬ長井十足藏

化物隻紙 一卷

繪土佐光茂詞飯尾彦六左門尉常房

奥書云此一軸土佐刑部大輔真筆也明曆三年八月日

探幽齋

仝 一卷

探幽題戲云隻紙繪土佐光持筆

畫狩野守信

鳩之間画

倭錦云妙法院宮鳩間繪法眼如慶筆

葉室山谷堂圖

國朝書目載之

馬醫繪 一卷

好古小録云住吉家所傳、貞享五年八月日摹本

ナリ後附藥草圖一二批ルヘキ事アリ

倭錦之馬医圖高階隆兼筆

山崎知雄云予所見の模本葉草船裏以下佛座ニ至リて十七種乃葉草
圖有りて内融院廿天録元年庚午七月八日とあり又次子真珠御字の
跋文有りて七高兵衛尉忠恭相傳之文永三年丁卯正月廿六日甲寅西
阿花押あり

馬場騎圖 一卷

法眼具慶筆

賢雄云馬の足あり毛色ありあつたり蓋常憲公の名
命よりして所作しり詞書なり

羽形圖 一卷 一云羽鏡

箭羽圖也奥書云天文九年三月日ヨ笠原氏部大
輔長棟兩本見合寫之ヲ安永五年丙申九月廿二

日伊勢貞丈

壑田圖

好古小録云天平七年讀改天平勝室八年撰津天平室

字三年國中田圖古ノ壑田ノ制可見

波龍琵琶

撥面以金沅画波龍摺紫檀後陽成帝所賜
花園家傳來

比部

彦火々出見尊繪詞

三卷

類聚目錄云繪越前守光長

倭錦云画光長詞參議推經卿

躬行云飛鳥井雅經卿画師光長のり八年中行事の繪の所は之なり

全

二卷

看聞御記

嘉吉元年二月廿百

云彦火々出見尊繪二卷金匡

筆

比睿山玉行幸記

二卷

書画筆者未詳

或云画已逸但群書類從第廿八收此詞

全 灵驗記 一卷

類聚目錄云前兵部少輔入道寂濟筆

倭錦云繪寂濟詞正徹正般正廣克孝

春村云比睿山王利生記といふ所のあり齋山無動寺の巻にて
持忠宝真寫本をもてり 書画筆者不知といふ是山王灵驗記と
いふもや續群書類從卷第五十日吉山王利生記三冊との記

全 二卷

繪所寂濟兵部大輔詞一條兼良公能阿弥井

上能登守忠英官庫粉本
記文 記正廣正般克

孝能阿弥の次金阿弥あり

躬行按之頼豪子孫に合せし二卷トスル候

全 縁起 一幀

画之姓名不傳縁起繪曼陀羅在于本社
繪本

全 廿一社圖 一鋪

國朝書目載之

倭錦云彈正忠廣周筆今在東齋山

躬行云山王は元来延喜神名式に近江國滋賀郡日吉神社一座と載
り凡そ倭錦社を最隆内社のうち日齋山は延暦寺を創め
天台の山王は働いて日齋大神を山王とあり中々のまをり山王七
社ありしりあるともを附會し次々えりしをぬ名としてして中
七社下七社とく後廿一社とくもゆふありし虚証証表
は僧家の事なり是は偽りしりありありの事志とるにとい
たといろくくちありくあり

全 猿傳記

画図品目載之

人麻呂像 一幀

十訓抄卷云栗田讚岐守兼房と云人ありあり年
頃和歌を好しけきと画は歌もよき出さうければ
心は若く人まろを念ひけるはあはれおれは西
さしもとあはれゆは祈ふ事なれくく梅花をとり
雪のこころあはれいこころかきけりけは
さうよめはととあはれゆはとよきさうらふ年を
うたふあり衣衣は唐主のこころあはれ紅の下のたの
まをたぐなはきは為帽をてえはのこころ

こころ常の人まも似たりけるたのこころ紙をもち
右のては筆をさめてたのきを染すはけしおさうあ
やして誰人よとあはれゆはこころ此れとらあは
とこころ人まろを念ひけるはあはれ心ゆふとよ
あはれ形をみたまはとばうりのあはれおれは
あはれ夢やめて後朝は繪河をよひてこはれを
のまうて書あけれと似たりければこころ
かきてこころまろを寝るこころ常はをこころ
れは其はあはれやあけむはこころよりのもよる
死あはれまれける年演ありて死るまこころ

時白河院よをらあけけぬはこころを
せぬしく御室のうちかへく鳥羽の宮を
後きめらまよけり六條修理太政大臣
尊ひくまきしく信茂を詰らひく書寫
とせもてりけり敦光は讚はくら来て神祇伯頭
仲は清書らせく本尊とて始免て影供せらぬけ
依とまよあそちおひけぬも其道の人とては
とく後頼朝臣の陪膳はせらぬけ依はく年とて
影供急らぬりや

古今著聞集

卷三

云彼清輔朝臣此傳へくる人丸の影は

讚岐守兼房朝臣ふく、お寄れ、ちを好く人丸の
容を、らけ流るを悲しく、けり夢よ人丸来りて
わをさくらあぬは形を頭とせたり、をほげり
兼房画図、く、後朝の画図をりて、く
書せけぬ、夢よ思、また、は、け、に、候て其乳
を、あ、め、て、け、流、を、白、河、院、世、を、ま、好、と、あ
りてかの影を知りて勝光明院に宝を授けぬ
りぬ、ま、り、修理太政大臣顯季卿近習とて所望し
けぬ、ま、り、御教し、ち、り、候、を、何、を、の、ち、よ、申、て
の、り、寫、し、と、り、顯季卿一男中納言長実卿二男

参議家保心此道よたへをしく三男左京大夫顯
輔心よ譲りたり兼房が居の正本は小野皇太后
申すけては譲りたる所をよ焼みけり昔之より自
筆の古今も其とき用しくやあるより口をきき
る也よ其は顯季心本正本を譲りよけ流しを宣
子解りともこは道よしくあらむとれよの傳ありの
りた馬もよすべうらげと起請文ありとも件本係
季卿傳へとりく成実卿に授らむよけり今ハ院よめ
ありて建長のころより影供をどけりともを供具ハ
家胤心臣家子のよとよ傳をりたりけ家胤家法心傳へ

とりて矢てのち其子息の許ありけり同院よ
免りおうれよけり長柄のちけ橋柱を作り家
文臺と俊惠法術もとり傳をりて鳥羽院の御
時も佛會をとよあたまれよけり一院佛會よけ
影のよとよ其文臺よと和奇披讀きられけ家と典
あはるのあり

同書卷五元永元年六月十日修理大夫顯季卿六條東
河院亭よと柳本太夫人丸供字行ひたり侍の人丸
影兼房朝臣あはるりて同繪きあがり左幸子我
をとり右幸子を授りて年六旬むりけり

其上子瀆をうく 右兵衛佐頭仲朝臣法書しり
本朝画史云元永元年六月十日修理太夫頭季郷
於六條東洞院被修之丸影供其像令兼房新圖之
大學頭敦光加瀆此圖樣並贊詞今行于世

躬行被之兼房朝臣夢本画姓名不傳頭季乃摹本は信茂に寫さし
ひと十訓抄に見えしれと何人かをうらむるを画史に兼房又
画のむゆを祈画工便覽には頭季郷筆として自ら加
筆者十訓抄には神祇伯頭仲と著聞集には右兵衛佐頭仲
朝臣とせりこはソウのらうらんうらむる僧慈延り坂川
百首抄に頭仲從四位下右兵衛佐中納言藤資仲男神祇伯
頭仲と同名異人同時の人也伯頭仲六條右府頭房公の男あり
と記さして源頭仲は保安三年伯に任じ頭房公は猶子とあり一は
安藝權守頭原にて別人あり其瀆辭は朝野群載卷一續本朝文
粹卷十一等に見えたり

全

名画拾彙云行尊僧云

一條院皇孫基平御男天台座主三
井長吏長承四年二月五日化七十九

好画因夢材本人磨衣冠凭几詠吟後朝日寫圖
之甚有生意画又丸以是為始後來画家以粉本画

使覽
同

全

倭錦云右京太夫隆信朝臣筆

貫雄云兼房朝臣夢本贊詞筆者未詳
大幅中院家相傳

全

同書云画信實朝臣色紙形為家鄉像手持料紙

方不滿寸其中亦書和哥白猫杉浦友街門尉藏

本朝画史云信実画人凡像今人得之為珍凡人凡

像世傳者居多但以髭髯黑稍多為徵也

全一幀

倭錦云豪信法印筆青紙形

全

同書云画行長色紙形世尊寺家定成朝臣

全

同書云刑部大輔吉光筆色紙形世尊寺定成朝臣

躬行云此條兼房朝臣夢の本色一形哀光朝臣乃讚詞之但十訓抄には梅花雪のことく子散生依よみ延也依よは色

日ハハらさあちりまのひりり 信本大幅長井十三藏

人麻呂縁起一卷或云材本縁起

繪光芳詞有敬郷外題豊忠公

跋文云右和州葛城下郡柿本村影現寺縁起此一軸也

近頃依大徹和尚之索文詞千種宰相中将有敬郷画

大藏少輔藤原光芳外題廣幡前内府豊忠公筆

訖遂以為全備焉各真蹟不可貽疑惑將千歳之寺

寶教享保漢十四年春上院權中納言重忠

躬行云享保八年二月十八日石見國高角社一正一位階宣下のりありて此縁起もいつてすけむとむおかしき候、但人九神龜元年三月十八日卒を昂本年一十年の忌辰に當りしといふ然も其人九在世に官ありて事業も國典に傳りしに其卒年もさる

さうぬるやうふみの宣命より年忌のりい載りてさうぬ

人麻呂菅公孔子三影 一幀

倭錦云豊前守邦隆画題字世尊寺経朝卿

躬行云邦隆ハ分願ニ繪所預隆能孫隆親男ナリテ経隆ノ弟也
安元頃ハ人トモトモ一從三位経朝卿ハ建治二年二月二十六日
薨セリ依邦隆ニハ年歴サレ後トシ後一倭錦ニハ邦隆を
隆親ノ曾孫経隆ノ男文永中の人トシテ是ハ例ノ所會有ラセ

百人一首像 二卷

刑部大輔光信筆

同新図

倭錦云奉後水尾院勅法眼如慶画之 其結構同千卅六
歌仙新図

日高川隻紙 一卷一名賢学双紙

画廣周詞筆者未詳

卷後云右道成寺之繪一卷者土佐彈正忠廣周真

筆無疑候仍加愚筆證焉而已延宝五年仲夏上

旬土佐將監光起

春村云此古事ハ舊本今昔物語集ニありテ安陸の名ハ元亨秋書
ニあり云云按ニ此物語ハ傳を賢学ともいへり故ニ賢学双紙の語アリ
改ニ今昔物語集卷第十四紀伊國道成寺僧馬法花一赦地法とあり
テ則此物語を祀さリ文章ハ異阿とも大音日高川双紙と異なる所ナ
ク但僧ノ名そのせり元亨秋書卷十九吳怪部ニ新安珍居鞍馬
寺云此立諸熊野云云とのせり其趣本卷と相同ナリ

平茸隻紙繪 一卷

類聚目錄載之

躬行按ニ宇治拾遺物語卷下不淨院法ある法沙ニ菊ニサリト丹波國
篠村トイフ所ニひらけおんくあつたの物語ナリ

りたりをてりたりの大なる

百恠圖

玉海安元三年六月十日云余刻胤作之昨日戌刻見付之仍

ト並申慎之由申乙日云件事昨夜問恭茂百

恠圖之中有所見云

百鬼夜行圖 一卷

土佐權守經隆筆

近衛家所藏

画後云正和五年六月一日以内藏寮本三日之間写

之了從五位下藤原經隆

躬行云經隆は中務少輔隆親男也又抄云承安中の人ときり奥書の心あり云あし遊了たまふよ百四十年定み疑ふ海然しては魚

本真書陽明家において柏木政雄展看し直ち又騰写未了是あり于時明治五年壬申五月あり

全 一卷

好古小録云一卷画光重

國朝書目云光吉筆

貫雅云幕府御物光重筆なり安政五年冬十月住吉弘貫名命ありと摹写し可惜残數あり

全 残欠

倭錦云百鬼圖殘闕刑部大輔吉光筆

全 一卷

土佐系圖云大藏少輔行秀画百鬼夜行

全 新圖 一卷

倭錦之左近將監光起画之

毘沙門像

同書云秦川勝筆

大幅和州
法隆寺藏

百布袋圖

書画年契云弘治二年法眼元信画之附于其門
人自是而後謝絕揮筆云

古法眼永祿二年十月六日卒年八十四

備中國政所屋圖

展閱目錄云東寺所傳

日張山青蓮寺緣起一卷

画法橋雪俊書僧正道恕

寺在大和國
宇陀郡

奧書云延宝九年八月上院之古上柱國定

押署

日御崎社神宝圖 一卷

不部

文安御即位調度圖

一卷

好古小録云此卷圖スル所皆古制ヲ考ヘシ但圖ノ細密

ナラサル遺恨ト云ベシ

画図呂類云平貞文云或説ニ文安年中即位無之

其書の終ニ文安元年正月令書寫了藤原光忠と

あり是より後人誤ク文安御即位調度圖と

題ヲを出さしむ此書中ニ大極殿乃事あり

大極殿々治承元年焼亡也後再興此圖

ハ治承己前の古圖ありまを文安元年ニ光忠と

ふ人傳寫セリとの本へしといへり此説確論之
然れば題号れ文安の二字を刪りて可也群書類從才
九十二載此同

豊楽院図

國朝書目云豊楽院圖同文亀中傳寫圖各一鋪
風雅集竟宴似繪

園大曆貞和四年
十一月廿日云今日豪信沘印未予謁之可寫

顏云者先年風雅集竟宴可被画似繪為其此間
於仙洞被召人々令画之予里身可令画沘云
余着冠直衣謁之民部卿同画之

藤房郷像 一幀

画刑部大輔光信 山城北岩倉
藤坊所傳

儻樂圖

好古小録云教訓抄及續教訓抄載ル所ノ
唐舞繪ナルモノ也樂儻圖中至宝也

全 一卷

名畫拾彙云兼道法親王木寺宮世平王男
俊小松帝即猶子画舞圖

題書則三條宮宝徳湏也

摸本跋云三條宮書御室繪舞銘當今震筆宝
徳元年九月日

一本跋云本書奥書云舞樂銘當今御宸筆画圖

三條宮御室繪右古樂園一卷四條宰相殿手寫御
本也又一本云寶曆五乙亥五月十八日騰寫左衛
門中尉盛詔

躬行云摸本與書は二条宮書とある書字ハ街取り一本の奥
書りてもある一宝徳の當々も 後花園帝はまうしせり然し
拾景の従ハ誤り之画は二條宮銘は則後花園帝の宸翰うらむ
但三条宮未考相卷中伎樂乃未信臆乃下は以カ納言入道本信西
追加之別記とありしとから舞セハを画り此局頗能画之精りら
はとくも人物方ハ活動せり

全 三卷

教言卿記應永十五年十月十六日樂事拔華三枚尾宮舞繪

三卷上借給也急可寫也廿三日舞繪本初尾親王借給
三卷也

也季英少寫之十一月繪具等買寄也季英見調

之二季英來画舞也五季英來画書之六今日元來

繪色許也七季英來舞彩主事之八舞繪終了

季英神妙也与引生物五十疋比興之

全 一卷

倭錦云刑部大輔光信画之

全 四卷

荒井千春畫白川定信
少將藏

全 屣風

好古小録云大着色儻樂圖粉本一此画元光長
寫之所メ光信ハヲ摸ス其圖扱ハキ事多ク一説ニ

光信圖スル所ト云非ナリ又一種儻樂圖屍風模本着色
シアリテ原本光信ノ所寫ト云是画所預光信ニ非ス
狩野光信所寫ノ摹本也其圖甚省シ

土佐系圖云光信画舞樂御屍風在官庫其寫在家
倭錦云光信画之

全二扁額 殘欠

倭錦云越前守光重画 有名印添樹石為位置
高一尺餘弘八寸許

舞樂面并装束圖 二卷

舞樂面及装束模本 高野密藏院藏

舞樂元田樂装束調度圖 六卷

高野山金剛峯寺藏模本也

佛足跡圖 一畫

右京遺文云佛足石跡石左側記云古唐使人王元景
向中天竺磨口口國中轉法輪見跡得轉寫塔是身
一本日本使人黃書本実向大唐國普光寺得轉写
塔是弟二本此本在右京四條坊禪院向禪院壇披見
神跡教轉寫塔是三本從天平宝勝五年歲次癸巳七
月十五日書廿七日并一十三日作檀主從三位智好
王以天平勝宝四年歲次壬辰九月七日改之寫成文室真
人智努画師越田安万畫寫口石乎口口口呂人足口

仕奉口口口人以上左側右在南都葉師寺

拾遺集哀傷光明皇后山階寺有西有佛跡書心付

予いけのみろちあまの布等此姿之処多處也

一人好月あり何とそこ也

不空羅索并四天王像

名画拾景云長岡大臣内麻呂公眞備好丹青賞

一画不空羅索像并四天王納于諸寺

普賢十羅刹女像一幀

玉海卷和二年正月十二日云此日舊臣女房等奉供養普賢菩薩

并十羅刹女一幅女房亦午自所奉罔也

新行按子治承五年三月十四日高倉上皇崩今年則周闍御建福乃志寫也

全 一幀

画罔呂目之画者不知遠州濱名大福寺什

倭錦之丸京権太丈信実朝臣筆濱名大福寺什物画

記云古者濱名之長者因女之雅病寄所之

賈雄云信実朝臣真跡無異論者也曾在新見伊賀守許今依舊画爲大福寺什物

全 一幀

信実朝臣筆

賈雄云故式部丞罔田爲恭珍藏之彼有事之後不知所在此罔最精微也

全 一幀

刑部大輔光長筆

躬行云右三幀十羅刹女容貌服章悉以國朝宮女吐衣作之頗優美蓋佛像中之雅品也

全 一幀

倭錦之主殿頭隆能筆

住吉家藏

全 一幀

住吉法眼慶恩筆

杉浦左衛門尉所藏

普門品画卷 一卷

跋云因通大士妙智威神力應現之相增至可所績忽有持經求售者予愛而慕之謹摹刻流通於現在生中願一切所求無不果遂者嘉定戊辰上元日雲

間錢仲虎敬書

正嘉元年丁巳三月廿九日中務丞管原光重筆也

英雄之宋版所摹筆畫也經隆等子修之故岡田為恭藏躬行校之此跋文相字已下的一句讀之誤寫也亦嘉定ハ宋寧宗の嘉定元年の御辰なり管原光重今考る処有

不動尊像

古今著聞集卷六六條宮御堂具并王中御六ひけぬは布障子

の役れともは今は弘高をはめさぬららば移れ之
こころ也弘高を多く自愛しあり此ひるころは金屈が

曾孫公茂孫深江子也公志兄公茂より所なは書たる

画生くぬものぬ公茂公茂今今の体今ハ今年今に今死

弘高少年の時出家し、うけりて後、還俗して、
まじり其罪をおそむく自ら十体の不動尊と
かまて供養し、くまむ

本朝画史云弘高画地獄變相或不動尊一十體而
為供養弘高初為僧還俗故如此云

全 一幀

越前守長隆筆

画進走之状傳云
蒙古退治之本尊

不動愛染混體像

一鋪

長隆筆

賢雄云聞之款野物鳥此修法是生坊、頃寺行于世與長隆
時代合矣此圖最稀也

佛眼尊

一幀

展閱目錄

柳尾條

云惠日房成忍筆有明惠上人詠歌

之贊

佛像圖

五卷

画岡品目云奥書云延慶二年七月十七日於仁和寺南

勝院書寫画金留佛子印玄

生年
廿三

佛外無魔繪詞

一卷

書画筆者不傳

在彩布
官庫

佛鬼軍

一卷

好古小録云佛鬼軍殘欠一卷画及詞僧一休

雍州府志云十念寺縁起一卷又仙鬼軍圖是土佐家筆也
日次記事云六月廿日京極十念寺蟲拂昨今之間朗晴天
而修之佛鬼軍一局奇物也

笈埃隨筆云十念寺佛寺佛鬼軍一卷奇品あり

躬引之は卷文政六年有摹刻六布一麻悉るをともして其大凡をしくし
一休書画といふ最信

不留学繪記 一卷

書画筆者未詳

初本與書云古祐清所持之繪本を以て全模寫天保
七年丙申四月會非齊

福富進紙 二卷

好古小錄云二卷画工姓名不傳

類聚自録云平安妙心寺藏光信筆

土佐系圖中之妙心寺春浦庵什福富双紙隆成筆

先起極相也此隆成ハ觀應年中人也ト云 伊予寺隆成地下傳
土佐系圖ニ越前守光顯ハ弟トあり 光顯は景文抄ト貞和中の
人と記せり

倭錦云画光信詞雅俊郷

飛鳥井雅俊々大永三年四月十日六十二才薨
光信永正中

古物語類字抄追云は物語は言向秀武といふもの年光

賀一かりし妻れをのこし道祖神をのこし
りし相子をのこしち鐵釘を賜ふと其夢の告を蒙

りぬゆくその書合を云身のうちよりさへのおれそ
ろねよりそ事をほむとつゝ然るをさう〜く尻
ひねるをちうらひて何ぶ〜の中將とのめされ綾
錦黄金を賜りい〜き福とさうりち〜は足^是傳^傳
さして隣よ七條の坊長福富とよありこれさ〜ま
くりけまばや書とありをい〜き美し男子勧めて
此傳はなが平子と〜か〜やう〜は秀武あさしき
てあよ〜ををを〜し〜まよりてはあ〜とみ
は〜さうらら〜てうち惣けぬてゆ〜こ〜いむ
妻い〜とら〜らね〜と秀武をのちひ〜

れむし〜をう〜り 足^是傳^傳
下卷 文体い〜と〜とあ〜くみ

申しし四五百年前此子傳つ〜いとあ〜自由傳但
此粉本を足々下巻の繪揃に凡ならん上巻は願有
きり〜さ〜は原本は下巻の〜さ〜上巻は後人此
繪是るありとあ〜さ〜い〜人あ〜架と字と全
文ま〜〜一具〜〜さ〜さ〜り上下二ま〜さ〜りし
を上巻はさやく後〜〜次〜〜写〜〜さ〜い〜し
もし有〜し〜し〜や〜し〜とあ〜〜さ〜らあ〜し
片江戸本所墨田岡田長兵衛新吉原所玉を山三郎
あり所〜ら〜原本かやとわ〜〜さ〜の繪巻あ

れと何とも上巻のくまて上巻有—足おまよりて上
巻、後人の出派とていふ説も起原もあらんかざら
又傳へて此画と土佐厚正廣周とてい説あり廣周
ハ實正派の人なりと文体の古雅な体と今百年餘も
よけけよおももるなり—古巻のたれまのこを
廣周々摸き流しなあらぬ、又平安妙心寺の御子
上下二巻ありて光信の筆とてり光信と文明の
人もれば是は古巻を馬—けい—と疑はるし
とていも二巻もも京本二巻は南北新の時代と
こおまもいものるあり—

躬行云本所傳所の坊長閑置、本は爲—て画力も何七編
家山三印が巻よりい—あ—は兩巻はて甲の西
火よあひて知とありぬとこのま、画は長升十足一卷を掲
い—と冷泉三印著書もい—を全成のと—寫本
すありて後賄ひとて原也書画ともよ不れ—て巻のめ高
く裝潢金銀をちりづめ—京本をあるすい—は—是とま
い—下ありは—本詞ハ少異同あり
ハ卷々官物—in 助館—

藤袋斐紙 一卷

倭錦云光信筆

袋法師繪詞 一卷

書飛障守惟久詞筆者不傳 研啓
御物

倭錦云袋草子繪惟久

画圖呂類云書画筆者未詳名物考云憲厩御時

御文麻子古筆の物有し、虫をみこりてしりぬ
繕ひるむやと何い若流、その繪のみりりり
よよりりて捨りぬしるありた云、又忠憲云画
抄といふも古に昔のあともいふへおを詞に
まりよはさらむともあゆくはげげられふ
はりしからぬに思くは後人の詞に書きてし
れりぬごし

貫雄云幕府の巻近所の火は鳥有とちりぬ惜ありし
住吉宗は真寫のなり

全 異本一卷太秦卷

画図品目云別本太秦卷申出准后に御本令

模寫不可出私相者文明十三年二月為親押

富士野獵馬所屏風

倭錦云刑部大補光茂筆

不二野牧獵圖

画図品目云肥後國阿蘇宮藏

遍部

平安都城圖

好古小錄云東寺所傳二種

一種殘欠

神泉苑所傳圖

右京

不詳拾效抄所載圖

脫水路

古本拾效抄圖

左右京并圖水路

國朝書目云都城圖

卷一

一卷神苑所傳

圖

一卷東寺所傳

都城大

小路寸尺

一卷寬正二年壬生官務注進

全宮埵圖

好古小錄云宮城古圖延曆遷都之制也破製十分ノ

一二ヲ存ス惜ムシ

國朝書目云宮城古圖

一鋪醍醐本坊所傳

宮城十分

一圖 一鋪

平家公達斐紙 一卷

倭錦云画越前守光正

或光信女筆
詞筆者未詳

初め小西衣冠坐為人禱いさくは後あり

平家物語繪 八卷

画刑部大輔光信詞杉原伯耆守

祇園淨舍卷櫻所中納言卷祇王祇女卷

安徳帝降誕卷頼常祈之卷小松殿教訓卷

俊寛足摺卷少将帰洛卷

貫雄云右ハ卷以白猫画之其永年中西所宗先所得信吉弘
實以爲光信書画一筆似之

全 五卷

西洞院時慶卿記

寛永九年六月六日

云平家物語繪文筆者

堂上衆也大膳亮之讀之字不知分予讀之五

卷分也

全 残文

画図品目云勝以画之

平等院鳳凰堂扉及壁繪

古今著聞集

卷六

云為成一日、うち宇治殿の扉の繪を

しりし後宇治殿仰らりし名所は其の繪を言く

一初れ月より、てらを言り、いふかく卒

ふよにかくそしるん所らわけ依布朝画名録

倭錦之繪師長者為成色紙形堀川具平親王孫左府俊房公

之方此筆云鳳凰堂は宇治どの御殿より廉乃繪を

為業色紙うらと堀川左府より入布道うそは法親心

のとひらして大切な色紙形をもと追ふる繪は

して跡もあらぬものなり文字も非能きものも

しく法親のれむとてそのゆりももあて

さうしと字のたま点のあをさうとさうよとよのまは

写せしとみ道後所もあはば何ぞい法親にせし

鳳凰堂廉僧十五葉田中納言所摸

保部

法然上人行状繪図 智恩院藏 四十八卷

展覧目録智恩院云法然上人行状繪図四十八卷画

刑部大輔言光詞書伏見院 後伏見院 後二條院

宸翰青蓮院尊圓親王三条実量公世尊寺行平卿

同定成朝臣姉小路庶泳海氏御外題尊円親王筆

者目録安井僧正道恕

右繪初め兩三卷の処と至極又多しみえ其余は才子

寄合書るともやせり劣り筆法探りし由依ふり有

いしりとも殊勝の名物画中波是故実写又其終

道々幸^同云々恩院一行同光大河繪詞并見寸書画等者同上

莊嚴結構れり筆者目録と冊子と安井道恕僧

正筆也軍司外題も同筆とお月くく作字もて

あり繪初二三巻にこまやうなると次より等七か

まうと依採あり世を行を採本よく引合にれ

ハ繪採あまうと相違せりいゆりたう寺僧之間

法とは為麻の奥院も一部と爲りりしまを

寫したるやと若く好

名画拾彙云京師智恩院藏法然上人傳画卷吉

光所画其詞伏見上皇及親王公卿之書之是正和

年間之事

倭錦云智恩院四十八卷傳画豊前守邦隆越前守

長隆刑部大捕吉光越前守光頭越前守長章飛

彈守惟久等六名合作之

躬行云好古小録と同光大河繪詞四十八卷画光信吉爲時公の
集古とて一画同品目には智恩院の傳傳を吉光爲時公のを光信
とせり是れ皆誤之又云此画傳倭錦云人合作の誤よりて年
曆字推考ありと云り邦隆は左中務少輔隆親男隆隆の弟
野文抄にあえはの人と云り長隆は左中務少輔信公四男又
抄に文永の人のと云り吉光は安中の人の光光の貞和は長章
は未詳倭錦に長隆男延慶にと云惟久は貞和の人有り邦隆
の安えより貞和までを數ぬる百七十年也合作は十年序録
りよえりつと云や但此卷の作名画拾彙に正和年間とあり
さらば安えは百四十年貞和は百五十年とあり百五十年
のりよえりつと云はるるは誤りなり但は合作の
る展覧自序に隆行の説を載せしむ住吉家の説もあらず

弘安し来り今案うらん

全 當麻寺卷四十八卷

倭錦云當麻奥院藏法然上人四十八卷傳刑部大輔
吉光一筆詞書後伏見院後二条院世尊寺定成朝臣
等

土佐系圖云吉光号土佐經 隆六男後伏見院朝画法然上人

傳四十八卷

展覧目錄當麻寺 條云法然上人行状繪古土佐詞書

伏見院後伏見院宸翰後二条院御代筆定成朝臣外題尊

円親王

道の幸同條云奥の院より由りて兼て園法法然上人の行

状と云ふは画は土佐家祠に伏見院後伏見院後二条

院三帝の宸翰より後二條院御代筆世尊寺定成朝

臣より外題は是れ尊圓親王芳翰に世に流布あり

布あり此れを摹せしむるといふは伏見院唐山

の舜呂法印より仰て此詞を作らせ繪より法然上人

造立ききありしに知恩院のみ有り又別より一部

寫すに御秘藏有しを後より舜呂知恩院に持ち

時より賜りぬ舜呂は才九世より十一世哲也上人の時円

光大師の像を此院に移しけり此布をもち

来りしつゝ

遠碧軒記云法然の四十八卷縁起和州爲麻子知
恩院ニアルト同事ニ知恩院二代隱居シテ爲麻ニ居
ラル方丈ノ縁起ヲトリテノキテ爲麻ニオカル知恩院
ノ八洲おまゐ

推書漫筆云世は行を爲す摺布は当麻の本きて大和
の西巖寺の古閑和尚の寫はせしなりと云

元幹云金戒光明寺和恩寺百万遍ホの什物ソツルも新寫あり
印本は報恩寺古閑の模詞書ハホウを伴あり
躬行按ヨ吉光世系詳あらん倭錦ハ徑隆の三男ハ安公の
人トシテ系譜ヨリ徑隆ハ男トシテハ分脈を動テハ徑隆ハ隆親
の一男隆能の孫トシテハ美安ハ其ノ弟安を二子トシテハ
百廿餘年を歴ヘテハ父子二世トシテハ豈ハ此ノ世を以テハ

必誤り候ヘ
爲麻四十八卷表題法然上人形状繪圖
西巖寺古閑ハ西岸寺右洞の誤れらむ

全 殘缺

倭錦云法然上人繪傳殘闕画刑大輔吉光詞書

後二條院宸翰

貫雄云此卷梶井宮空性親王の書統あり東武増上寺の所蔵
あり

全

類聚目錄云法然上人縁起繪尾張國光明寺藏

春村云己上二種は黒谷上人傳或ハ九卷傳と
縁起は法然の縁起あり

法然上人往生繪

中原康宿記室德三年十月十六日云今日仁和寺本願寺律院相

傳云法然上人自華生之繪被持余仙洞有戲覽云

壽永源平合戰之後熊谷次郎入道奉迎法然上人尋

往生地儀上人未迎之姿畫給蓮生其後熊谷代

々相傳了近來此書本願寺相承之教子孫寺家有

戲覽

名画拾彙云法然上人源空ケル氏作州稻崗人

建曆二年正月廿五日化八十能圖像像或描自相

末冰諸寺有寶藏

躬行按山攝名勝志卷八葛野本願寺今為小井在永円寺之中云

法然上人像 一幀

本朝畫史宅間澄賀傳云九條藤相公使澄賀寫法然上人之

真今在嵯峨二尊院所謂足引之影是也凡欲畫上

人像者皆因之

法觀寺緣記

倭錦云法觀寺緣起繪豐後法橋

本朝画史云豐後法橋不知其姓名字画於覺其阿

闍梨画八坂法觀寺緣起

全

同書云安房守仲氏曾画法觀寺緣起不知何許人

法相宗秘事繪詞 一卷

倭錦云住吉法眼慶恩筆 南都一衆院藏

法隆寺金堂壁畫

寺傳云鞍首止利所畫

日本紀云推古天皇十三年夏四月鞍作ノ鳥為造佛之工

貫雄云左葉師作土右師作土白壁上以朱画ノ加彩色古雅不可言看上世之画凡無於出新者

金寶物圖 三卷

田中訥言所畫 藏于本寺

法華經譚卷繪

倭錦云慈鎮和尚書本經卷標所画光長筆 但着色筆并僧也

躬行云青蓮院慈鎮和尚諱慈円号法性寺座主法性寺関白志通公男嘉禄元年入滅七十一

法華曼荼羅

同書云前兵部少輔入道寂滄画

類燒阿弥陀縁起 二卷

類聚目錄云弥陀縁起繪鎌倉光朝寺藏詞二條為相郷

新編鎌倉志 二卷光觸寺縁起 二卷筆者藤為相

繪八土佐將造光起也

奥書云此繪不慮感得又間多年所奉所持也然此本尊十二所道場御座ノ由兼及之間為増利益所奉

寄進彼道場也于時文和第四之曆暮秋下旬之候而
已法印權大僧都請嚴函裡書云延宝四辰年七月廿八日
修慶并竹相奉寄進之書後國府内城主松平左近入道
如月

躬行云今泉為相鄰、定家卿の孫為宗卿子權中納言正三位為曆三年
七月十七日於鎌倉亮を土佐將監之典考候也
實雄云辛酉秋鎌倉に至りて是之序亦以中品の傍より可憐
所に入墨あり、但讀摩古類從前八百四十四所

慕歸繪詞 十卷

柗庵隨筆云詞存書逸

跋云右十帙之篇目一部之旨趣記先師之行跡課當時
画匠偏依中懷之難然不顧外見之所朝者也可憐

可憐、矣邊山老襟大和尚位慈俊記

本云日來書留之本求失之間命細嚴大僧都會書寫者
也應安元年戊申六月二日記之存覺

右於木於慈祝、以真筆之本今書寫也于時享
德四年七月十九日書寫之訖右筆蓮如四十一

星曼陀羅

土佐權守經隆筆

實雄之猶本大幅表箱表面有延曆寺印
長井十之花

鳳凰孔雀繪 二幀

倭錦云隻幅巨勢有康筆

郭公琵琶

搦面画青山明月瀑布之图傳云平經正之器黑田家所藏

本朝五常图 一卷

画图吕目云画者不傳

画图吕類云直方按より及のものる存ぞし

本間孫四郎繪 一卷

書画筆者未詳 模本逸詞書

未部

将門合戦繪

吾妻鏡正治三年十月十六日云將軍家日来仰画於京都被将門合

戦繪今日掃部頭入道所調進也二十箇卷納時繪擅殊

御自愛云

同書寛元三年十月十日云日来於京都以平将門合戦状被令画图

之去月忝着之間今日於將軍御方大殿覽之教隆讀

申其詞

柳庵隨筆云将門合戦 不記画云

躬行云正治三年二月十六日元を建仁と改ち侍然る又十一月下旬に至りて猶正治の号を用ふはいづも是時書を記すには画事云ハ

園らぬとて寛文の將軍に於嗣大殿は頼経なる去年糸経時其
主経を慶して授嗣を立り

松嶋日記 三卷

画図品目云画土佐守光俊

画図品類云画光俊

清少納言繪詞 一卷 同書歟

躬行抄云玉子清少納言の年考て後又奥の松一葉ありける道の
日記とてやうて松嶋日記とて名はけき依りて二冊ありたりとて
てみりしはまづいふべきに傳書にてむけは拙く見所なきあり
ははは通き同し古書をすむものうちつらとてまづ書き依りて通
元年ころは依りてなる書を依りて依りて依りて依りて依りて
う依りてなるは依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて
世の人をまづいふべきに依りて依りて依りて依りて依りて依りて
識りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて

魔佛一如繪詞 一卷

書画筆者不傳

故西村宗先所持後 屏内藤宗藏

窓北紙

古物語類字抄云骨董集に女房の火爐は足りし
紙に依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて
依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて
依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて

松風琴瑟

撮面画松樹糟未詳

原俗人林廣一記 後水野出羽守花

松禽繪

一幀

倭錦云法眼慶恩筆

美部

御神楽図

住吉法眼具慶筆

御蔭祭神幸図

國朝書目云御蔭祭神幸雙紙 粉本一卷

水無瀬殿四季御繪 四卷

高野日記云信実朝臣乃みれきとの四季乃四卷

詞が花同草書製をいあふありい法ふ傳

まへらきりくもあとの瀧殿田上のみをみよ

海少島青ふたれわやまの所くたいつく木のるあふ

水打とらげそめをりくれば一三をうたわけ
ら水——いまもめよほまき流やよほる

増鏡おとろれ云みちをさしつゝまよえもいそたおしち

支院作りあばくうむおすま——つて春林の流

かみぢよはけてもあふくあふく世とむらうそ

あまの夜おそそ——あまの所うらもを感くと川よ

此その夜眺望いとあ——ろく念元久此こゑ

詩よ歌を念せらうと——もとうあきそこそは

みわきあば少もとうすむとぬせうは申あへ

と枝とほよあまひけむわあたううあきとのあ

て候いとえあよここのうさばあの入り

續群書類従才立る二収二高野日記に於て

名目不知物語 一卷

倭錦云画越前守光正詞後二條院宸翰古筆

卷首に男とこころを茶と取ふかと画あり 能画あり高嶋よ
載云隆成源氏といふは則是なり

明恵上人繪行状 三卷

展覧目錄臨山寺云明恵上人繪行状三軸三完高信筆

蜷川親元日記寛正六年七月二日云明恵上人繪三卷貴殿還御

目候同日明恵上人繪三卷自貴殿下返下云同日明恵

上人繪新造女中より召之にあやし馬進之

按子高信世系考係處有各画按稟子載之て其年代と
未詳と云々(親之日記所記と卷数同し)其の
しり
其の

明惠解脫上人縁起

倭錦云越前守長章画

明惠上人白猫肖像 一幀

同書云惠日房成思筆高山寺

展覧目錄高山寺云定間法眼子惠日房筆墨繪像一幅

本朝画史云僧成思号惠日坊者明惠上人弟子也性

好画因字定間法眼或曰定間之子也云筆拾能似定

間專二佛像兼能雜画

明義渡紙 一卷

好古小録云画工姓名不傳

彌勒菩薩像 一幀

展覧目錄高山寺云明惠上人筆

水手繪

東三條院瞿麦合云七月七日皇太皇宮これ侍

あさせはもろふた歌少将内侍山北の中ね控本

右乃うこ少将はあんと四位少将をちよ云右の

まいりあつちゆひそちゆいそはつちゆいそちゆい

まをちゆいそちゆいそちゆいそちゆいそちゆい

み流ともあうぬをあるせゆわのるうねるるあてし
のそれら此を南一のらるるにみだるるすし
常あのをれは行は流の思わ枯す居るはふらくみま
たりこのゆりえくらもよるあふおれ枯るあといれ
あしあなるもとい死つ桐樹もとるし西のこえり
ありまぬほりしを南一のらるるあてし
よ子水よとくよのふ昇あむもるるあてし
記してはちぬすところのものをい

船行云此水年の傍らより一海をへしこのまもあはれめし
とやうのてあてのこをとりひてこの水年はあてし
やうるゆいほいほなとはうらよ方のさのり終るあてし
こそあてしゆいほいほなとはうらよ方のさのり終るあてし
二る廿六所載各有日号同

水車図屏風 二帖

倭錦云彈正忠廣周筆

源義家朝臣像 一帖

戎装図 費夢相國所 画工及所在未詳

源頼朝卿像 一帖

戎衣図 宅間法眼筆

源尊氏公像 一帖

騎馬図 画工不傳 熱田地権院 什物

源義満公像 一帖

春日行秀画

三島社古弓箭圖

金太刀圖

水車圖
武部
一幀
大和國
榮山寺
什物

武部

武智麻呂公像

倭錦云巨勢公筆

大和國榮山寺
什物

貫雄云画中有養老ノ年号凡古昔衣冠乃袴を召さるりの説
大職冠と此像とを以て當時の風を考ふべし
躬行云繪本真年説ニ武智九公の名普通ニムケテ口とあり
誤れり云々フケテ口とあり云々
天武天皇即位九年甲申四月十五日誕生於大魚之傳義取茂
葉故者名矣と云えしれども氏より藤麻呂と名付けらるる
子認むる所一と云ふ 梅は此説いふれり 藤は公の文吏の大臣を
不比呂しかると同じ例を好字をあらて藤を武智と云ふと
る所一又公の才を所望と名つけらるる所一これ花葉子と云
らるる所一藤は公の才を所望と名つけらるる所一これ花葉子と云
わしそ夏の証はつる義不茂葉とありと云ふ所一藤は公の才を
ひあらし一藤は公の才を所望と名つけらるる所一これ花葉子と云
証せらるる所一藤は公の才を所望と名つけらるる所一これ花葉子と云
いと云ふ所一藤は公の才を所望と名つけらるる所一これ花葉子と云

此は余は藤の... 但君方類從卷中二十四名武智名傳

紫式部日記 残文

画尤京權太史信実朝臣詞後京極撰改

楊子倭錦子榮華如法繪信実朝臣詞後京極殿と載る所此日記より之の所多し一杉山度近付花一卷

今自画像 一幀

名画拾彙之紫式部越後守藤原為時女能作丹青
手摸自容置江州石山觀音堂画上題云有門空門
亦有門亦空門非有門非空門書歌二首其画中
大 年散失近衛信尹公命狩野孝信倣圖彼像題字
和哥一如舊式五玉之

此像贊近世所有本文所記とあり... 有門空門亦有亦空門非有非空門誰よまあるりて... かるみよりけりふら存りありし... 思ひ志しけり也

無量光院四壁并扉繪

吾妻鏡 文治五年九月十七日 云無量光院 号新事 秀衡建立

之其堂内四壁扉圖繪觀經大意加之秀衡自圖

繪狩獵之体

本朝画史云藤原秀衡創無量光院世号新御堂四

壁圖魚量壽經大意加之秀衡自圖狩獵之體

三重宝塔院内莊嚴悉摸宇治平等院

倭錦云無量光院四壁及扉繪藤原秀衡筆

按此院内の画秀衡画之所狩獵圖は其の如く倭錦
に於て秀衡筆と云ふ所の誤りあり

宗俊繪詞 二卷

書画筆者姓名不傳

躬行云古銚木安寛所藏摹本を以て菊池武保拵持
せり本と云ふは具詞を以て東を以て洋の如しと
しては鎌倉の頃ありて画に云々なる所を
越前守と稱する所のありと云ふ

年禮高松軍繪 一幀

倭錦云義経年禮高松軍繪越前守行光

筆

室所殿既圖屏風

彈正忠廣周筆 土佐守光
字景

元幹云此繪古法眼珠眼と栗田口法眼隆光所画なりとソ
り云々の屏風等が家花ありしを昔年隆光の定め
ありしなり今た以て老しは字景あり

免部

妙音院殿繪詞

一卷

書画筆者未詳

躬行按此繪相國師長公琵琶堪能りののきをりよして
書画の時代もいふ所ありぬ本心

毛部

牧馬御琵琶

胡琴教錄云或人曰牧馬は紫襪甲又小馬或二三
足木繪云入字海字

蒙古製来繪詞

三卷本名竹崎李長繪詞

画図品目云文永弘安年間画之者未詳詞竹崎

五郎兵衛尉李長

倭錦云越前守長隆長章兩筆

原本卷後云永仁元年癸巳月

傳云李長
自記

屋代弘賢云此画世人稱為蒙古製来繪詞者誤矣蓋竹崎李長
自記其歟切以納于神庫者也且字竹崎李長繪詞耳

躬行云此繪河肥後細川家人大矢野武右衛門所傳なり其家は
予の繪の中ニ載る天竺の大矢野十郎種保が裔にて昔日竹崎
と通る事ありしに其婿引手を得たりし如し今人の家の宝庫
又をためて秘におゆを不許と同藩士木原権臣ソテたててこの
巻は歴代名前の後を記し如し竹崎五郎守長が勲切乃其子
ありしが我ありりらける軍中かこしより載ゆべきならんや
是をわけて蒙古合戦の全傳としありける人のたよりと
なるはいづれに誤なり

また云近世近所土州丹波若狭中ノは徳川の刻本三冊有り其は故
宮崎千春が繪馬也一冊也原本ハ肥後藩士福田川象ハの眞跡本
を以て模写せしめて即千春が繪本なり然るも其刻本上巻
并十七巻中の裏面色の根柢ある所は天賊の首をとり薩カノ突又
其らぬさうも堂法歩まの武者二人ありて其首ハ一葉の裏を
あちのちのひらんとりありて其首ありて其首ありて其首あり
る武者の並立ありて其眞跡本ありて其首ありて其首あり
の初めありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
ふ武者の首ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
やふり賊徒おいはりて首ハ二太力ありて其首ありて其首あり
ぬきてつらつらありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
たの繪もこれとて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり

ものちをさるわりのめいれくひしきらるる軍一載せしめは
いみき失錯ありて一此事第一記一うり一同一くま人
本魚楯臣其弟侍野藤左養長ふたりとす其首ありて其首あり
歿也川原ハ木原ハ同姓也此繪河を三本模写せし人とも先
のしり一江戸ハ有々ありて其首ありて其首ありて其首あり
てしりハ川原此補画のこを改寫すといはれりも其首ありて其首あり
まありて其首ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
業一版武者ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
新しうりて其首ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
こもハ養長ハ模写せし其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
有しりハしりハしりハしりハしりハしりハしりハしりハしりハしり
ぬきて其首ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
眞跡をみしりハしりハしりハしりハしりハしりハしりハしりハしり
千春ハありて其首ありて其首ありて其首ありて其首ありて其首あり
くまも但漢教徒五百七十三行橋立師傳あり

文字阿弥陀三尊像 一 幀

古今著聞集 卷五 西寺法師書背後鳥羽院の西

西は平時実としてをけあるとよをさふらひしめれ
れりよのちりて嘉禎の頃五十首の歌よとて
志新の馬新は藤原の友茂が候いけ家は送り
字のふなを更なるしりて睿覧ありてみる
うら十余首は清点をけちまはる中よりこれ
くのぬくまもみぬきのりより日なひを
りまららぬは奇をちるふぐらあおす
りけはもぞさくは月をまはあみ字三言
を文字よちるげして久あしるもせけぬ
今わかしくるをねお念として常よをのし

文字人磨像 一幀

後鳥羽帝宸翰以歌々文字作像以硯字造
研画且加彩色意匠妙絶聖教後
珍花
倭錦云後鳥羽院宸筆人丸字入

木筆廿六歌仙 色紙

倭錦云越前守光顯画之
類聚目錄云木筆哥儂光顯筆水戸家
藏

全不動像 一幀

本朝画史云根来寺覺鑊上託問為遠傳画法

尤能梵書曾以木筆於墨圖不動像生意發
動為神妙非凡手之所及者

全 一幀

倭錦云越前守光顯筆

全見文珠像 一幀

同書云覺鑊上人筆 又有赤童子

文珠像 一幀

東寺御顯堂具足目錄云弘真僧正筆即彼

文僧正寄進每月勸學院文珠講本尊用之

文覺上人像 一幀

画工姓名不傳 高雄神護寺藏

喪之繪 一卷

筆者姓名不知

黃雄云画工ハハシクニ云々一ハ何ト五百年前の繪ナリト云
疑有

也部

八幡縁起繪

類聚目錄云刑部大輔光茂筆

夜須禮花繪詞 一卷

画図品目云畫土佐光長詞雅經三位

画図品類云奥書云年中行事追加詞書雅經卿

画土佐光長

輪地屋代翁夜須禮花考一卷有り此繪年中行事追加と記し書るは
 疑ふしやまらひし夜須世俗より事起りて年中行事より全き也
 のりあふべしなり
 躬行按百煉抄卷云久壽元年四月色々京中見女備風流調鼓
 笛參紫野社世号云夜須禮有勅禁止と見えまじし和訓葉子長和五年
 三月初て高雄の神渡寺に法華會を行ふ俗より水をやまらひむと

いふる孫起し人おほく集りて高雄の法華會やまらふまてよりと
いふるをかくてやまらふやまらふを九巻とてその西行高祖山あ
りぬるありか法とありぬるやまらふと法と法と法と法と法と法と
せり藤原貞幹とおそらくは古の女田舎といふものなりむとい
るる擁書法華を載せり但推經御光長時代不過のよりはこよ
ましくいふる也

載擁書漫筆やまらひ花全詞三月十日やまらひの法華會といふ
とおこなふ京中の女のわらひとまらひとまらひとまらひとまらひと
をけり花ある家よといふてまらひとまらひとまらひとまらひとまらひと
るるあり記上巻むらたの法華會をといこたんとまらひとまらひとまらひと
已上中間此外はは初書なり

大和物語 残文

中院大納言為家郷書画一筆

屋島合戦繪 一幀

倭錦云刑部大輔光信筆 大幅細画也

今圖屏風 二帖

同書云八島軍屏風筆者未定

類聚目錄云八島合戦繪屏風 尾張家御藏

山越阿弥陀像 一幀

倭錦云惠心僧郁筆 在洛東真如堂

藥師寺縁起 四卷

詞書道恕僧に真書云右藥師寺縁起舊本靈換
文詞紛倫闔寺之衆恐其終歸于磨滅使予繕寫
文段西岸寺前住明譽古蹟上人逐段而圖繪事裝
潢既成叙為四卷矣 縁不朽進窮未除耳享保

元丙申歲黃鐘中葺東大寺別當兼華嚴宗大史

安井門主前大僧正道恕

展閱目錄葉師寺云綠起四卷古碯畫筆力可見地藏院

續羣書類從第八百有藻沙寺孫起

病雙紙 殘欠一卷或云異疾草子

倭錦云画刑部大輔光長詞寂蓮法師

類聚目錄云疾双紙繪光長筆同吳本

真書云右異疾之圖十七枚者画所預刑部大輔光長

朝臣真筆無疑濫者也仍監證如件享和四子二月

九月二十六代孫画所預從四位上土佐守藤原光貞

無詞書一長并十氣藏山崎知雄云弘化乙巳秋狩野探信家藏病草子摸本
を是る探出法印の摸を伝述といふ跋文知識方一其圖をなす三十七般
あり今存在伝述の原本よりなり二十種あり探出法印の
筆ありや否や不知といふも頗る真蹟の勢鬚を伝述は是也
此本詞書云一吉光の筆といふのといふ別品なり

全 一卷

画刑部大輔吉光詞兼好法師

真書云疾画一卷大館高門家藏也其所圖不成人

十六種予廿五世祖刑部大輔吉光真跡詞傳曰卜部

兼好所寫也而今分其中一葉見贈予々即摸其圖及

其逸者一葉贈之聊謝之其画雖出一時戲笑可謂希

世之品寬政丙辰季冬初五日觀之画所預從四位下五

佐守藤原光貞

画図品類云繪と土佐光長詞を雅經卿のより住吉廣
行より原本尾張人大館への所蔵と云

貫雄云は巻草者吉光兼好の説不中画は光長詞は寂蓮十
七葉のゆのよおる一原本初ある力のけおよ不見其他模本も
よみ凡初を送す後一也

全 残欠 三段

刑部大輔光長筆

故園田者茶所花無何三版とも考人の圖るゆを三夫人の巻と
名あるててよ愛玩せり為茶死後所ををりら也

但は地残故詞を々々一筆を春也此甚一人を画し初は
せよく初のこころまうし海やうなるあり云又肥ふとりし海
女のんよわうしありんを意のこころ初子道とありし海
よのし初けし海女ありし是亦上件の同書ありし初残欠

世上に存きり

全 一卷

筆者未詳

開巻第一は尿よ赤女あり巻尾は陰囊乃ありまふ法河あり
上牛筆あり初方也

全 一卷

筆者未詳

墨跡朱時符の模四ありけ処の人物水子板のまふ取まふ水子
を着せり

全 一卷

好古小録云疾草子一卷画光信

画図品目云画光信一云光成

上子載る筆者未詳ニ種のうちニ光信の筆といふものありやけしむるなり也

山姥渡紙

類聚目録載之

焼画

今物語ニヤむとれま人のもとよしま集出まよ
くりやち魚成めはきくは海より一歩もあれば
前子よびて檀我より支條をきけおを海に河段の
焼るるつ羽をとりひけさばおる駕をやあといもれ
る海よりちるぬづまで三たよを我一まいそやと
海に口まはこあるをあし一たといふめておれ

しうは一首よちせといもれあさばかひのこい
りて浪のうき岩あり火成と出まよもさい入る
きはひりくみるほめよけり

船行云今このうりは左京確太史信實朝臣の標日し
て多巻ありしよしを少しいまに僅に一巻せし残りあり
朝臣は美久原の人ありしと懐画といふものしといふ世の
ものよはあらんをむ群書類從四百十三に今物語一冊あり

由部

雪見御幸図

一卷

倭錦云土佐権守経隆筆

類聚目録云雪降行幸図

躬行按子隆世遜物語をのり幸古今著聞集卷十訓初卷七雪み
之之心白川帝小野皇太后宮へ雪見の御幸なり一少多を画七か
る七心

雪夜参内繪

古今著聞集

八卷

以中將忠季朝臣督典侍

法性寺修行能因法師女

を心二け七年月を二けぬけ二き二い二り二も二た二び
う二き二り二け二り二子二り二る二雪二の二い二き二く二ぬ二り二る二家

よいへより馬よのりて糸内しもあはらうのあり
さゆ内筆のたもしつろくを終はらうて六位
をかしらぬい彼司へるげ入らあしう督れまや
とりんてありれとやあしむも又画しや
めてけむまより逢ふけり其後久しくかまひ
て中將親平はこれらよりわらまけり流但本朝画

史取は文載

夢之記 一帖

展覧目録 梅尾 云明惠上人筆夢記一冊

記中まじり徳ありは法華受賞を云

夢物語 一卷

倭錦云法眼如慶画

唯識曼荼羅 一幀

倭錦云秦致真筆 雨亭庵抱一蔵

融通念佛縁起 三卷大原本

繪之法眼琳賢 常信 詞尊道親王 画外題于堀改一

奥書云至徳二年 丑六月廿六日左衛門尉源家高押

躬行云青蓮庵尊道親王歸寂のありしを諸門跡傳ふ文和四年十一月九日任座主貞治二年九月八日辞退應永七年二月廿七日還神と見え至徳の頃よりなればは海有琳賢は東大寺大仏縁起の筆者ありしは巻尾に天文五年被全法河の奥書を具しとありは日河筆とありしは琳賢といひの誤なり

全 二卷

書畫筆者未詳

卷尾云右良鎮房為融通念佛勸進此繪六十六國各一本可傳賦但不限每國一本隨勸進之儀任所望之体一國多本亦及遠邊郡蕃弟之界可被傳之云云以觀其隨喜之間一國分奉合力者也特費先考幽冥性指極樂之因惣得法界群類融通无遮之益旨趣如右矣至德元年八月日左衛門太史散位俊直

全 二卷

畫越前守長隆詞世尊寺行尹鄉

水野土州所藏

躬行梅子從二位行尹鄉貞和六年正月十七日薨長隆は分脈之同名ありて決しつゆは凡文承中乃人と云ふ處多し行尹郷よりは先輩なり七年應合云々

全 二卷

繪越前守光顯辞筆者未定

所藏同前

全 一卷

画芝法眼琳賢詞坊城左衛門

名女杉浦左衛門藏

全 二卷

画土佐光信詞石山杲守僧正

卷後云這融通念仏縁起兩卷者石山座主杲守

洞院公賢

息四代入集 真蹟無疑為後証記之而已萬治三曆仲夏上旬

古筆才佐

此融通念佛二卷、繪土佐光信真筆也狩野右京

進安信

所行云石山果守僧正片應安頃の人永正の光信は未生以前有れ八時世懸隔と云ふ也

全 二卷清凉寺本

嵯峨清凉寺所傳画前繪所預土佐守藤原行廣前

刑部少輔入道寂濟粟田口民部卿法眼隆光前繪所

備後守藤原光國太支法眼永春春日繪所預修理

亮藤原行秀 各有裏書 落款

詢後小松院宸翰妙法院二品亮然親王青蓮院准三

后二條大納言持且公殿比丘聖意円滿院僧正尊信清水谷三

位中將実秋卿興福寺別當僧正光曉東大寺々務

尊勝院僧正已上 丑卷征夷大將軍義持 公殿前天台座主因崎

道勸細川真居士性松赤杉沙彌宗壽佐木聖謀院准

三后道孝殿 九山門尊勝院僧正忠慶已上 下卷

奥書云右此融通念佛勸進之繪六十餘州悉隨所望

賦傳之令勸進驗之云此願心隨喜之間奉合力

令開板者也願此善願切力及父母六親眷屬同得

往生無邊群生平等利益矣明應元年庚七月八日開

板成河押依良鎮上人所望染筆者也應永世二年甲十二
月十七日禪住坊法印権少僧都兼盛押

勸進北沙門良鎮申愚僧此融通念佛の繪百餘年
古くはる意趣也善提薩薩利物為懐の至るは順し
て六十餘州一本二本或多本此繪を多くてあま
しく貴賤上下を勸め奉り名帳をゆりて供養を
とけ當座寺の福積壇に奉納せりあて決定往生
の因もえりて心定めし開板せりてものなり此
念佛を存し所とてすめありんか為所得の
心も信し利養の中よりちとて檀越入布施

を受用せりるやかくし斟酌ありてたもの也應永世
一年四月十五日依良鎮上人所望染筆者也壽河押
兼名家刻本奥書云享和のころ京師嵯峨釈迦佛
像を東都にもり奉りてむり開きてあましくをり
まがしことありし時北縁起二卷を有る人のうらよ
せくとも文字しをりしものなるは筆の筆も
との古しきたぐ之筆もその古きとて筆は姿を
残しちるをりしとてうらひ極ありあら
しめ所ありあきなりい名と花押と後自ら筆
してありしまたの表よりたくりよあせしをり

よは浮のすまのおもてよちぬすゑを写しあや
まの流ぬは後よん人あらふあつらんる
を原蔵し終つとそ

躬行按コは海起應永の跋文ニ開板のよりみえしれと為
時刊行の古摺少くは稀なりしをこのは画本を彫刻して
開板せむははかしくもかたうさめはあつらんるは
られりしははつり國よは種まきりしを一本二本今の限よ
残らしてやとあふへきさあゆみのありしともよし聞えぬとそ
阿也いふれこもあつりしや中行あらはしりしとそ
ありしあらんかしを四百年しやちりしは享和子至りて
摸刻のちの出たしこもあつりしけぬのはれらるり

融通念佛勸進帳繪

類聚目錄云永觀堂藏

游行隻紙 一卷

画越前守長隆 無詞書

躬行云は卷筆者土佐守光貞鑑定ある云は長隆の父永年開一遍
鬼同時の人なりし月長隆のりし學生卷の下より一編を遊
行と稱え

結城合戦繪詞 残欠一卷

類聚目錄云結城合戦繪 画図品類 押庵慶子名
載之不便筆者

此卷筆者とらへし能画るの新吉原町娼家山三市の所
在なりし蓋聞て和十月震火の災に傷りて焼却せしと但隆
群書類従才五十七十六結城合戦詞を収む

輿部

輿地圖

好古小録云一鋪下鴨社所傳之梨木三位祐摸本す

延曆廿四年改定之圖ト云古年代記ニ所載ノ圖ト大同小

異也

本云國六十六郡六百三十一田八億一万八百六十二町
鳴田所定長門延曆二十四年二月改定

拾苾抄印所載圖云大日本國行基菩薩所圖也云々

本云七道州六十八其内嶋二郡六百四鄉一万三千餘自京陸奥東濱
際行程三千五百八十七里六丁為一里定自京長門濱際行程一千九百七十

八里全上

但此圖行基僧の所圖と云ふはとも山樺國を以て都海と云ふは
平澤みよしの馬時の力のよあふと云

北野社神室大圓鏡背輿地圖アリ

肥後守加藤清正
所献有銘

躬行云松浦武四郎弘近時大円鏡二徑三尺許を携送し北野社及東京
上野東照宮に奉献あり其背亦有輿地圖北海道十一國を加へて八十
四國を圖し明治十二年弘亦鑄大鏡如前者一枚献於浪華天満社十三年
附于吉野山十四年附于太宰府天満宮

輿車図考 十二卷

白川少将定信朝臣撰渡邊廣輝图画

鎧武者繪 一卷

畫工姓名不傳

貫雄云八葉あり中古の銘あり人物は大なりて
関ハ微細なもののなり

吉野曼陀羅 一幀

倭錦云刑部大輔吉光画

よぢ王石勒像

宇治拾遺物語 二卷云是も今はあひ一繪佛海
良秀といふ有り家のとりより火出即ち風
おしおひひてきめけしは逃あぐ大駭い傳子
りりきむいよまておりれしは家所得いれし
いあわさるくかき守流まのりあとりおとあま
と母らひよ来守流まのりめさといまよりの
いしきあふ家うといひたれは何とよみのつ
ふ屋まも年頃不勒尊の火船をましく書い
ああり今みればかくこをりえんもれといん
い流あり是こそ志といふ此道をまてよよあら

あはれは日とけきよきよく書奉らなはとちれ家
もつは素ぬむじききくしちりそはきる能もあハ
きぬは物をば越しそぬとしいひてあざきりり
ひてこそしそりき道其のちもや良秀がよ
ぢりふぢりふとていまいふをめてあしり
十訓抄所載大同小異本館画史亦載之

良部

頼豪草子

一卷式云山門僧都

画圖品目云画光信詞一條禪閣

残欠

倭錦云画前兵部少輔入道寂濟詞一條兼良公能

阿全海若州丹上忠英合作

躬行云三がみゆ交古勢見伊賀守蔵古卷より善画るり并
桓頼豪ホ教人を画て山門僧傳と題きり按は頼豪と寺法師あり
山門僧傳としかへるる疑を欠く兼良公才せ六代東山
内明能阿比比廣山還賀して全阿比中頃山門は忠英東塔東原右各
真蹟無疑者也予初冬古筆了意

頼印僧正繪詞

二卷

画圖品類云頼印僧正行狀繪詞二卷

柳庵隨筆云詞有_一画逸也

躬行云頼印僧正は鶴岡八幡宮別當至應の頃の人あり續群書類從第百廿四有頼印僧正行狀繪詞

羅漢像 八鋪

名画拾彙云今高小寺所在羅漢像八鋪法橋

俊賀摹唐本以墨也

全 二鋪

倭錦云壹岐守巨勢有久筆為時一新並身公並

洛中洛外図

同書云法眼具慶筆画卷有二

全 圖屏風 六枚

刑部大輔光信筆

全

倭錦云具慶筆

利部

離宮八幡岡

一鋪

倭錦之巨勢有家筆

良道琵琶

建曆御記云俊房公良道琵琶移云上彼換面文不可違彼唐人打球形也

龍虎琵琶

撥面画着色全身龍虎雲樹并築大社神宝也盖聞 後醍醐天皇以北條氏誅伐之御願文竊納於此胡聚槽中所奉献云

不傳画
工姓名

兩界曼陀羅

二鋪

平家物語

卷三大塔
建立條

云娑婆世界のありしおもとて

高野の金堂より曼陀羅をかこけり西まへへて
は常明法印といふ繪師よりせらる東曼陀羅
をば清盛うむとして自筆よりこけり流が八葉の
中尊の宝冠をばつゝ思ふれおむ我首の血を
出してこけりを聞えり

全

二鋪

東寺御影堂具足目錄之画工姓名不傳種子金
泥紫^{覺性}金^性臺寺御堂筆下

全

名画拾彙云覺性法親王鳥羽院皇子号紫金
臺寺御堂嘉應元年十二月十一日入滅^一能画図
高野山御影堂兩界曼陀羅具所親筆也

全

同書云道覺法親王号西山宮後鳥羽院皇子
青蓮院門主能画鎌倉鶴岡寺覺院藏兩界
曼陀羅所親画也

全

倭錦云藤原秀衡所画有常陸國行方郡西蓮

寺

全

展閱目錄

梅尾條

云惠日房宋恩筆

陵有童舞圖

一幀

倭錦云春日行秀畫

舞童上有春日山圖

利休居士像

一幀

同書云画土佐光吉贊大德寺春屋和尚

田部

類聚雜要抄

現在八卷

中國相國公賢公撰

丹鶴本奥書云茲有類聚雜要抄者四卷乃因

為制舊式之書之但末減其述著之為何誰耳

竊按嘉吉二年康富記云有中國殿御抄類

聚抄者五六十卷現在總二三十卷其餘可尋寫

云以是觀之書名似自有打合者疑此書類而

今所得四卷圖象雖頗精而猶簡古雖悉辨也

尋者前閱白魚糕公嘗抄憂之以御厨子所預從

四位下紀宗恒能詳於舊式而試命之令校正焉乃
因弟四卷之所記以按圖稽古更分弟四卷以爲
二卷矣然餘卷尚未校正予竊歎之曾以稟於公
欲繼質之公甚悅以稱許焉予於是復使宗恒再
校正餘卷以成書總爲六卷矣然後此書所載呂彙
制度即可指掌以觀既而由道遙院內府實隆公之
本重加一校亦花延嘉書庫以爲家珍云爾元錄
十七年四月十一日兵部鄉文仁親王跋之

君年書類從本第四百 真書云此抄四卷以新院御本

第一親長卿筆第二道遙院內府
第三光廣卿筆第四宜卿 書寫校合了第四自本所

持之先考御筆所祖又
亦被加御筆 全部數年雖有望不得之今

蒙恩許歡悅無極深藏以相底不可他見矣寬文

第十三孟春社日獻納散人押

画図品目云画土佐光成桂宮御藏

元幹云元五十卷歛散供して今存正海もの僅六卷其他尚仁親王被
加真筆本一卷車圖一卷都くハ卷の月うをふ見坊官本の写本は四卷
のく群書類從より四卷のあを不載

禮部

歷代帝王宸影

一卷

画工姓名不傳記云自鳥羽法皇至陽光院

村野守
信摹云

彩本在官庫
陽光院贈太上天皇諱誠仁後陽成帝御子天正十四年七月廿四日薨

呂部

蘇州帝王宮殿

畫上抄卷不詳

蘇州帝王宮殿

六種圖考

藤貞幹纂輯第一輿地第二都城第三飲食第四

錢幣第五印章第六碑碣第七古瓦

六道繪

後画味記貞治二年二月十六日云任兼法印持來聖護院宮狀云

任兼北頃持金墨筆六道繪見之事件無比類

重宝也此繪聖護院坊官源意法眼所持之皮法

印所傳借也十八日聖護院返事并六道繪遣任兼

牙

塵袋卷五云南都常明が書名数卷ノ六道ノ繪アリ

畜生道ノ分ニ土蜘蛛ヲカツラノ網ヲシテトラヘタル事ヲカケルニハオハロシゲナル大蜘蛛ヲ書タリ

六祖傳衣圖 三幀

展覧目錄天龍寺條云後水尾院御物土佐光起画六祖傳

衣鉢圖之幅塔及三考院所持

良辨隻紙

類聚目錄載之

貫雄云曾之強久をみる文明院のちのりて
画法めちりて

麻宛院殿像

展覧目錄高尾條麻宛院殿画像有應永廿二年甲午

九月六日佛日山怡雲某讚

倭錦云春日行秀筆有色紙形神謀寺所藏

和部

渡殿布障子

味建曆御記云殿上渡殿云々此方副高欄立布障子

二間立柱画打毬向下戸横ニ女官ノ戸ヨリ道ヲ通テ立

馬形障子号波祢

禁掖秘抄云下ノ戸ノ末二間渡殿ト云黄縁ノ畳ヲ二行

ニ敷テ衝立障子ヲ立タリ馬形障子ト云裏ヲ打毬ヲカ

ク

古今著聞集卷十云大ウを清涼殿のからあもみか

書あらはせ侍り渡殿ノはをぬるま上

と馬障子きてつとまきおちる一わいとわお四相
の馬のまの馬のつとまきおちる一わいとわお四相
波馬形の障子に金圍の書うりけりよれは馬
と萩のとのまきを巻くとは馬定あつとこの馬
はあつた体を書きよつとちりけり時ありとれ
まを成りけりと申傳へるよはまよとれりけ
ゆるりよ

和歌曼陀羅

同書卷之祭主神祇伯親宣伊勢國いを傳り
少あま堂をたてし膳西上人を請て供養をとけ
けりきりお上人奇を好まよとれは時の歌よと
常よりあひて和歌の會ありりり倭奇曼陀羅
を圖画して過古七佛とよ奉り又廿六人の名字
をかきよつとまよ諸悪莫非衆善奉りの文をか
きりり色残形あり義彦公を清書せらる又
仲の曼陀羅に布寺の重宝とそ有まて土佐権守
親経とよとよまきわけをを飾りてとよひと
めしけり相傳りて親守とよとよとよあり建長
元年九月外宮遷宮よ予余向乃とれはまあつら
たつた出しとよとよのみまよとよ是れとよとよ

本朝画史之雲居寺僧贍西能倭歌曾圖倭哥曼陀羅其圖本傳有之

躬行云画史はくしり著聞集よりとりて記さりとみゆゆを在書
和哥曼陀羅贍西能は此自らかけりとも聞えぬを自画の如くあるは
誤るらん

和漢抄屏風

古今著聞集卷十能通繪師良親之屏風二百帖之繪をかきせしりけりそはるるよきと和漢抄の
死やうぶよハ中々春水をかきよらる画を書きよ
やまといふをかきしりけり唐繪の屏風也実記
傳へたりけりを成章は古布よりありとを

躬行云山并能通朝臣画は良親のるは押元録屏風のことあり
ありといさしり記しり

和漢將軍影 十二鋪

吾妻鏡建曆二年六月廿四日云將軍家入和田左衛門尉義盛家

御儲甚丁寧以和漢將軍影十二鋪寫御引物云々

和漢朗詠集蘆手繪

画図目目云世尊寺伊行郷書朗詠集料紙蘆手下

繪脱画匠名

房士傳故の北田隨筆は永曆元年四月二日司農少卿伊行所画筆手繪
故貞幹所藏として二葉載るるありて繪は此朗詠集の下巻を誤傳
一しよのと画六誰よとあらしよの故傳伊行朝臣は從四位宮内少
輔宮内大輔世尊寺定信朝臣の男と云永曆中の人司農少卿宮内少
輔のから名あり

和漢注生傳繪

一鋪

本朝画史云四天王寺別當行慶撰和漢注生傳使尊
知法眼画九品注生之人入道相國賴実公九人各令詠
歌一首又令管宰相為長卿賦四韻唐詩色紙形
書者大納言教家郷也

往生繪

二帖

長秋記

保延元年七月廿二日

云監晚參院云給注生繪二帖

和田合戰繪

殘欠

倭錦云土佐守行廣筆

若竹帷屏風

同書云左近將監光元画之

爲部

尹大納言隻紙 二卷

画尹大納言室詞大納言師賢郷 白猫

名画拾彙云尹大納言師賢郷室 右府宗志公女 容儀端婉極

於繪書花結詩歌管絃之道

卷尾云右卷物画詞二卷 卷之名無之 尹大納言師賢郷

真蹟 大通寺中実法院所藏

躬行之此卷桐樹條の処ニ雙月見の新ニ版各山卷と云々、白猫ありて書画とも甚殊勝なり、曾て冷泉為共愛玩なり、今所在を知らん

韋駄天像 一鋪

倭錦云小川僧正兼澄筆 捺印

井手玉川大堰川屍風 二帖

粟田口法眼隆光画

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

惠部

繪師斐紙 一卷

左京權太左信実朝臣書画一筆

好古小録云画信実結構俗氣ナシ眼ヲ悅シムベシ

躬行云此卷古筆了伴所繪後之七幕府子狀也向しなく大坂回録子傳) 卷子鳥有とる) 如可懂惜但丹鶴叢書中有模刻不足見

采華物語 殘欠

太皇太后宮行格卷東宮行格卷画飛彈守光秀詞

筆者未詳 或云清水谷 實秋郷 一説画光時詞清水谷公藤郷

躬行云狩野養信采華物語記約競行幸卷考引建永二年五月十四日明月記云御堂障子台画工可合書之由夜前有仰事云又仰云以尊智大輔兼康内一人可合書時方以康俊信能光時八橋平三可合書藝方又六月十七日今夜仰云大井川以光時可合画者此間有行幸儀也大畧以康保記委

示合了徳嘉代の野行本日記一斟而而已とありはよりと光時所画を
といふ然して公藤郷に推大納言正二位弘安四年五月廿四日四十七
歳せりて建永の時時未生のころあり又光秀は元亨中の人
一説は詞大納言実秋郷とありはより此郷應永正七年四月廿一日薨を
光秀より後輩として時代を分け合ふ

惠心僧都縁起 一卷

類聚目錄云鳥羽僧正筆 高山寺所藏

倭錦云惠心縁起兵部入道寂濟筆

永福寺扉繪

吾妻鏡 建久三年十月廿九日 云永福寺扉并佛後壁画図終

餘の修理十進季長画之是被摸秀衡建立圓隆寺

至于画図一事以上如彼云々

按此寺既廢を新編鎌倉志に永福寺二階堂と号を有の東北にあり今田间に礎石をのみと記あり

永久寺板障子繪

画圖品目載之

画圖品目是之

亦々考対觀于會

袁部

一幀

小野道風朝臣像

好古小錦云信實朝臣画其容貌其衣服實當

時ヲ想像セシム此像模本ニ裾アルモノアリ俗工ノ隈ニ添ル

延論スルニ足ラス但朱後闕
腋ヲ画ク

類聚目錄云左京権太左信實筆青蓮院宮御藏

倭錦云小野道風像信實朝臣筆

全 一幀

頼壽法橋筆画上貼道風朝臣真蹟一葉近衛家藏

此画容信實朝臣筆といふものと合し同一といふ予いふは口足を
親展せし

大内記小野奉時畫

紅色緋上以金泥画之長四尺餘闊一尺七寸餘色紙形赤青二枚亦以金泥画花鳥

讚天台坐主明尊書

月よりのそぬ梅のよかあるまゝに
をあたうせよまのあまをてむ

木二頭小野朝臣道風之肖像父大内記小野朝臣奉

時所拜寫之也故以曾祖父道風朝臣之詠歌書之

安于常院于時永承三年十一月十一日天台座主明

尊押此記文有像之右像

躬行按此歌後撰集秋上子載りり普通本三供句まのせまをてむとのあは誤あり

亦云扶桑畧記康平六年六月廿六日前大僧三明尊八滅九十三兵庫頭

義時子也天台座主記明尊内藏頭道風孫兵庫頭奉時男古今着聞

集志賀僧正明尊道風孫兵庫頭奉時之子也等兼を悟む人有り云

云元亨初書卷初明尊武庫令奉時之子道風之孫望之曾孫云

永承三年八月任天台坐主康平六年六月廿六日卒九十三諸書ありて

明尊之堂師の曾孫道風朝臣の孫と云は此記と不合但大日本史列

傳より小野岑守生堂生葛孫生子二人好古道風生後生

生美材と云べし初て義扶生奉時生明尊と云は是もまの記文と

不合他日小野譜善本とて訂正すも諸布奉時を義時或は

奉時と作るものいひの字形の似たりあり誤りありき

古今集哀傷は僧正明尊かく記す後久しくありて所ありも若く

らよとくくして字ありしけりもさきよあふらるるを

見て律師慶暹あり人の何れをたふして奉てり所ありあぬ

さしよもなるみかふらるるもみえり此處高世の珍也極所
伊丹人故山川清族人某藏今東京青木信貴所藏式云原
和州法隆寺什
八木道傳系道風奉時佐理本朝高僧傳早入國城云住河内法院
天長五年再嘗志賀寺初撰集大僧正明尊山階寺供養の道守師
ことあり

小野小町盛衰繪

吾妻繪建曆三年十一月八日云於御所有繪合之儀云云廣元

朝臣就覽繪者國小野小町一期盛衰事同日去八日

繪合事負方就所課又召進遊女等皆摸兒童之形

詳文水于付紅葉菊等着之各歌律画曲北上堪

藝若少々類及延年云云

男衾三郎物語 一卷殘欠

画図品目云大須磨三郎物語一卷殘缺薩州侯

画図品類云大須磨三郎物語一卷画古土佐詞二

條為氏鄉男山牛庵 鑑定

倭錦云画刑部大輔隆相詞二條為氏鄉

貫雄云為氏鄉与隆相時代不谷と躬行按子為氏大納言は寛平十た
うありぬと尊昇分願は弘安八年八月出家とみえり隆相は歌文
抄にた下傳よりて越前守長隆男とせり又の長隆は文永の
人なり其子隆相は文永の頃とす之をわたりて為氏郷と時代よりい
て凡阿のころに躬行按は物語の名を男衾を語本をふりて
誤りつひは須磨をいへぬ文字を推あてり此は物語吉見男衾
とて与家ありしをゆすむる和名を衾をゆすむるに優ありとのこりみは
ひしすむる武男をさすむるにふまひしりかくて男衾都子登三は
進子てあはくむるなりなる卷のしゆあけて作者の用意より
ど男衾吉見は其子武男の地名あり但字長田一惠は傳三卷住吉法眼の
筆とすは是非をいりらば

小弓御所軍繪

画図品目載之

男繪女繪

中右記

寛治八年八月十九日

今夜大殿於賀陽院有歌合典是

依永承例女房与男房為讀人云次東戸前立丸

右文臺云唐人硯臺道立和歌書五卷打敷赤地小文

錦和歌書物卷文各五卷

春夏秋冬祝各一卷福福袖色之色浅下繪左女繪右方男繪皆書音晴欲美

麗過奢無極

采華物語

根合云

右大臣殿乃姬君内よまのりらせ

書まひぬ京極殿有まばりしゆのげし色色ひをを

ひ繪をどいとめてしう書あひををと繪をと繪

師をぶりしうかをらひて

卿行云男侍女侍といふありと周すぬすありといふはれとと文字ををちりしめたりしをぬすぬおろすといふとるぬすといふとめたりし

しうちありありとをぬすぬといふとるぬすといふとめたりしは後の考のしめたりしとてしうはしうあり

嗚呼繪

今昔物語集

卷二十六

云今昔比睿山ノ無動寺ニ義清阿

闍梨ト云シ僧有キ若カリケル時ヨリ無動寺ニ籠居テ真言

ナド深ク習テ京ニ出ル事モ無クテ年終マシテ房ノ外ニタニ不

出シテ有様極テ貴カリケレハ山ノ上ノ貴キ人四五人カ内ニモ

入ヌヘシ然レハ方ノ人只ハ祈ヲ付テ為サヌキ也ケリトナム云

ケル其ニ此阿闍梨ハ嗚呼繪ハ筆ツキクニ書ケトモ其ハ皆

嗚呼繪ノ気色ナシ此阿闍梨ノ書ク筆尤ク立タ様ナ

レト只一筆ニ書ク心地ノ艶ニ見ユルハ可咲キ事无限ニ然レ

トモ更ニニテハ不書ク態ニ紙継テ書ク人有リ只物可

許ハ書ケル名人書セケル端ニ弓射名人ノ形ヲ書ニ奥
ノ畢ニ的ヲナム書タリケル中ニ箭ノ行ク形ト思シクテ墨ヲ
ナム細引渡シタル異物モ否不出マシトツ極ク腹立ル然
レドモ事ニモ不為シテ有ケルヤシ僻者ニテ有シカハ世ノ
人ニモ不被受テナム有シ只世ニ並死キ嗚呼繪ノ上手ト云
フ名ヲ立テ真言吉ク習テ貴キ者ト人ニ不被知テナム
有シ

名画拾彙
亦採載之

躬行云これをも繪といふものも今はおのづからも
たまたまゆわその名をいふよとてあむ

岡屋禪閣像 一幀

画匠姓名不傳藤原兼經公像 高山寺藏

小野篁郷像

画工未詳 長四尺六寸濶三尺八寸繪本 弘仁寺什 寺在大和國添上郡

類國史仁壽二年十二月癸未三木左大弁從三位小野篁薨六十七

...
 ...
 ...
 ...
 ...

附圖文... 二月... 三木... 六... 三... 六... 十...

小...

...
 ...
 ...

